

令和5年度 第3回 会津若松市中小企業・小規模企業 未来会議 要旨

日時：令和5年11月28日（火）14：00～16：00

場所：会津若松市栄町第二庁舎2階第3会議室

1 開会

2 協議

会津大学短期大学部 木谷准教授を座長として進行する。

① 情報共有（最近の状況や課題、各団体の取り組みについて）

- ・会津コインの普及に関する学生のアイデアコンテストをゼミ内で実施した。
- ・会津地方振興局の会津DX日新館の企画で、柳津、三島、金山で観光客向けのアンケートを実施した。分析はこれからだが、只見線の本数の少なさとそれによる不便さを多くの観光客が指摘した。
- ・学校祭をコロナ禍以前と同じ方法で実施、予想を上回る多くの来場があった。
- ・現在の進路決定率は54%。進路先の傾向などに大きな変化はなし。
- ・会津ブランドものづくりフェアと同時開催でジュニアエコノミーカレッジの販売実践を行った。その後のまとめセミナーでは、商売の結果を数字に表して、帳簿を締めて会社を解散し、決算報告を銀行に行った。子供たちは自分たちの利益が幾ら出たのか？配当はいくらになったのか？の計算や株主への株券の買取、借入金の返済や利息、納税などを疑似体験した。
- ・東北ブロック大会や福島県連会員大会などに参加し、県内外の事業者との交流を行った。
- ・会津コインについて、各種宣伝活動はされているが中高年の方々には慣れていない面等もあり、買い控えする方もいた。
- ・各種展示会等の開催が活発になりつつある状況の中で、一方では価格転嫁が出来ずに廃業、事業所閉鎖となる同業者もいる。
- ・国際プラスチック展覧会に見学予定だが、宿泊費の高騰に驚いた。
- ・政策提言委員会で室井市長への政策提言を実施。次回以降の反省点として、議論に十分な時間を割けなかった為、もっとテーマを絞った形で行うことになった。また、提言を行う側の企業に市政に関する知識が不足していることから、勉強会を開催するという意見も出た。
- ・共同求人委員会では、全会津の高校の進路指導の先生と、同友会企業、AiCT企業が集まって懇談会を実施。先生側からは「現代の学生の取扱説明書」と題してご報告いただき、企業側からは「中小企業の取扱説明書」と題してご報告いただいた。その後、テーブル毎にグループ討論を実施し、生徒と企業の直接の接点を増やす方法について議論を深めた。
- ・会津大学生の地元就職促進を目的として、地元中小企業でのインターンを促進するインフラ整備の為に会津若松振興局と連携。将来的には三団体での連携協定を視野に、若者の地元就職の推進を目指す。

- ・イベント関係業種に関して、コロナ前に戻りつつあるが、予算が潤沢にあるイベントは少なく、規模の縮小や予算を抑えた形での実施をしているものが多い。
- ・青年会議所に関して、12月からの新体制に向けた会議なども行われており、年度が交錯しバタバタしている。インフルエンザ等の流行で会議の欠席者が増え、運営に苦労している。
- ・運輸業は、イベントや旅行が復活したことで、貸切バスやタクシー利用が増えたが、ドライバー不足や燃料価格の高止まりが問題。
- ・建設業は、資材高騰と人手不足が続く。また資材高騰の影響で注文住宅の顧客判断が遅い。
- ・小売では、食品や各種商品の値上げによる買い控えが生じている。
- ・旅館ホテル業は、行楽シーズンとインバウンド需要で好調に推移。
- ・ITサービス業で、インボイス制度や電子帳簿保存法のソフト導入が多くなっている。
- ・人手不足のうえに最低賃金の上昇、固定費が上がるばかりで経営を圧迫している。
- ・インボイス開始後も問合せが多く、地元税理士による講習会を月2回ずつ開催している。
- ・電子帳簿保存法のセミナーについて、定員以上の申込みがあったので11月にも開催する。
- ・醸造部会でオタネエンジンのPRを実施、運送関係の部会ではラッピングトラックを作成。
- ・今まで免税事業者だった小規模事業者も多々あり、これから始まるインボイス制度導入後初めての税務支援では、申告税務支援では煩雑化が想定される。
- ・物価高騰の価格転嫁については、理美容等のサービス業では転嫁が難しい状況にある。
- ・あいづ商工会の地域活性化事業として、ライトアップ・イルミネーション事業を実施。
- ・燃料費、原材料の高騰が企業経営に打撃を与えて続けており、価格転嫁が必須のところへ来ている。民生部門への価格転嫁も進むと思われるので、あらゆる部門でのインフレが進んでいくと思われる。
- ・会津地域の企業においては人手不足が深刻であるが、業務オペレーションや設備投資を進める上での人材がおらず、業務改革ができないケースが見受けられる。
- ・外国人技能実習生の法律改正が来年度には実施される予定であり、今後より多くの分野で外国人労働力が入る可能性がある。都心部と地方の企業で外国人の取り合いになる可能性があり、今後の状況が見通せない。逆に本来の技能実習生の趣旨に基づいた取り組みを進めることが輸出等新たなマーケット開拓につながると思われる。
- ・職員採用試験への応募が以前に比べ極端に少なくなっていることと、数年勤務し戦力になりつつある職員の公務員等への転職により、人材が不足しており、若手職員の教育に手が回っていない。
- ・ビジネスマッチングイベント出展斡旋や地域貢献活動、全国しんきんネットワークを通じた観光客誘致、外部専門家斡旋による経営改善、M&A等の支援を実施。
- ・11/9(木) 第19期あいづしんくみ創業塾終了19期卒塾生15名 トータル卒塾生217名
- ・11/10(金) 当組合 福島県信用保証協会 日本政策金融公庫合同「創業セミナー+交流会」を会津若松ワシントンホテルで開催、参加者40名。
- ・10/28(土) けんしん商店街で販売PR、12/3(日)~4(月) 常磐もの応援フェア開催

② 今年度の未来会議について

- ・活動や取組みをしている方々の見学会や意見交換、一度見たり聞いたりして実体験してもいいのでは。
- ・各団体の状況や現状、取組みを共有することが大事。持ち帰って何かしらに活かせると思う。
- ・未来会議で持ち寄った情報をそれぞれの団体でフィードバックさせていくとともに、行政でも事業等の組立てに活かしてもらえば有意義に作動していくと思う。
- ・事前にテーマが決まっているともっと込み入った議論ができる。
- ・若者の市外流出を知るために学生との意見交換をしていくというのはどうか。
- ・意見としては、人手不足や人口流出が多い。
- ・短大生に話を聞くとすれば、客観的に見られるので可能であれば地元以外がいい。
- ・他所から会津で創業する方や移住婚を増やせば人口が増えるのでは。会津若松市の人口を増やすことはみんなの力でできると思う。
- ・皆さんの関心としては、長期的に人が減っていくという事が問題ということは共通認識としてある。ただ、人口減といった時に色々な要因があってそれをごちゃ混ぜにして話すと、複雑怪奇になるので、前提として会津若松の人口減少の特徴のようなものを詳しい人から話を聞く機会があるといいのでは。
- ・人口減少社会における未来の中小企業。
- ・人口が少なくなっていく中でどうやって企業を存続させていくかという切り口もある。

○事務局より

次回、オブザーバーから話を聞く機会を設ける。それを踏まえてテーマを検討する。